

世界で輝く市川市ゆかりのアスリート

私が熱くなれる場所



12月3日～9日は「障害者週間」です。障害者週間は、障がい者福祉について理解を深めてもらうこと、障がいのある方が社会、経済、文化、その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的としています。そこで、今特集では今年開催された東京2020パラリンピックで日本代表として活躍した本市にゆかりのある選手から大会でのことや日常のことを伺いました。

☎712-8549障がい者施設課

市川市ゆかりの東京2020パラリンピック選手一覧	アーチェリー	宮本リオン選手
	車いすバスケットボール	香西宏昭選手
	車いすラグビー	今井友明選手 羽賀理之選手
	トリアスロン ボッチャ	秦由加子選手 高橋和樹選手

アーチェリー

生半可な練習量と覚悟だと対抗できない



アーチェリー 宮本リオン選手

私は普段から緊張することがなく、特に今回のパラリンピックは自国開催だったので、余計に緊張はありませんでした。もともとは野球をやっていて、病気になってからも復帰を願っていました。しかし野球は無理だとなったときに、たまたまアーチェリーの初心者講習会に参加したら面白かった、というのがこの競技を始めたきっかけです。

アーチェリーの魅力は何歳からでも始められて、長い間続けることができることです。また、健常者と障がい者が同じルールで戦うので「同じ土俵で同じ条件で戦える」ということも大きな魅力です。



市川で思い出のある場所は里見公園です。子どものころは友達と集まって、自分たちで作ったルールの遊びなどをしていました。今はだいぶ変わってしまいましたが、近くの商店街にもいろいろな思い出があります。

座右の銘 猪突猛進

車いすバスケットボール



選手としても人間としても成長していきたい

今回のパラリンピックは、感謝をたくさん感じる大会でした。大会の運営やボランティアで支えてくれた方々や、温かく応援してくれたみなさんに大変感謝しています。私は12歳のときに車いすバスケットボールの体験会に参加したことがきっかけで、本格的に競技を始めました。障がいの状態によって選手それぞれに与えられる持ち点制度が戦略に大きくかかわってくるところが



車いすバスケットボール 香西宏昭選手



この競技の最大の魅力だと思います。もちろん、ボールと車いすを同時に扱うことや車いす同士がぶつかることも面白いと思います。

市川市を2019年から東京パラリンピックの最終調整に向けての生活と活動の拠点にしています。障がいがあることで困ることや諦めることは残念ながら少なくありません。障がいだけでなく、ケガや妊娠をされている方にも暮らしやすい街づくりをみんなで考えていけたらと思います。

座右の銘 Live as if you were to die tomorrow, Learn as if you were to live forever 「明日死ぬかのように生き、永遠に生きるかのように学ぶこと」

車いすラグビー



支えてくれること全てが私たちの原動力です



車いすラグビー 今井友明選手

羽賀選手 今回のパラリンピックでは、たくさんの方が応援してくれました。開催時期がちょうど夏休み期間だったこともあり、たくさんのお子様も来てくれて、応援してくれたことがとてもうれしかったです。

今井選手 このパラリンピックをきっかけに、自分たちをアスリートとして憧れのまなざしで見られるようになったのかな、という感じがします。障がい者は守るべきもの、という固定概念が少しずつ崩れてきてきている気がします。

羽賀選手 車いすラグビーは車いすの競技で唯一タックルが認められていて、そのタックルの激しさと体育館中に響く音はすごく魅力的だと思います。

今井選手 ただ、その激しさの半面、4人で力を合わせてゴールまでの道筋を冷静に作り上げるという連係プレーも大事な競技なので、いかに冷静に周りを見ながら連携できるかを見てもらえると面白いと思います。

同じチームの4人の中には、障がい重い人も軽い人もいますが、その戦略的なところも考えるとやはりこの競技はとても面白いです。

市川は交通の便がいいので、交通手段が車の私はとても生活しやすいです。駐車スペースというのはとても重要で、運転席のドアを広く開けられる場所を確保できることが必要になってきます。道の駅いちかわにはよく行きますが、そこで出会った方にも応援の言葉をいただきました。

羽賀選手 思い出の場所はえびつ公園(南行徳公園)やコルトンプラザなど市内にたくさんあります。また、塩浜体育館の観客席の周りを車いすで走ってトレーニングしていたこともあります。

座右の銘 為せば成る(今井選手) / 冷静と情熱のあいだ(羽賀選手)



トリアスロン



お互いに相手の立場に立って考えることが大切

みなさん応援ありがとうございました。パラリンピックを開催していただき、スポーツで心から感動を共感できるのは、生命の危険がないからこそできることで、本当に幸せなことだと感じました。フィニッシュした瞬間には、世界の選手たちとこの舞台上で戦えたことをとてもうれしく思いましたが、やはり目標は表彰台に上がることでしたので、まだまだ頑



トリアスロン 秦由加子選手



©Satoshi TAKASAKI/Triathlon Japan Media

張っていかねばと心に決めました。

私は大会前に、市内の小・中学校で講演会をさせていただきました。たくさんの方々と触れ合い、パラリンピックの選手や競技に興味を持ってもらえたことがとてもうれしかったです。また、その中で気軽に声をかけ、わからないこともどんどん質問して、偏見や先入観なく受け入れてくれて、少しずつ社会も変わっていると実感しています。

座右の銘 今あるものを最大限活かす努力

ボッチャ



たくさんの方に支えられて生きてきました

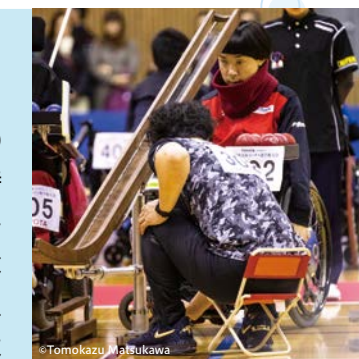


ボッチャ 高橋和樹選手

ボッチャは重度の障がい者がパラリンピックを目指せる競技でありながら、障がいのない人でも年齢や性別を問わず楽しみ競い合えるユニバーサルスポーツです。最も障がいの重いBC3クラスの選手は自身の手でボールを投球できないため、ランプ(勾配具)を使い競技アシスタントと共にプレーをします。数ミリ単位で勝敗が変わる場面が

多く、狙ったところにボールを置くテクニックはとても見ごたえがあります。力を合わせ戦うからこそ、日ごろから共に過ごす時間、コミュニケーション、同じ志は大切にしています。私と競技アシスタントの連係は強みの1つです。私は不器用で競技センスが低いので、才能やセンスでは相手にかないません。また、すぐに楽な方に逃げってしまう自分に甘い人間です。そのため、日ごろからコツコツと努力を怠らず励むよう心がけています。

座右の銘 努力に勝る天才なし



©Tomokazu Takahashi

「I♥あいフェスタ2021」をWeb開催します



市では、障害者週間に合わせて「I♥あいフェスタ2021」を開催し、市公式Webサイト上で、さまざまな企画を行います。障がいがある人もない人も、熱くなれる人もそうでない人も楽しめるイベントです。ぜひご参加ください。



I♥1グランプリ

障がいのある方の作品を「手作り部門」、「写真部門」に分けて募集し、Webサイト上及び第1庁舎で公開します。どなたでも、気に入った作品へ投票できます。

Web投票期間 12月24日(金)まで
展示・投票期間 12月13日(月)～17日(金)(12月15日(水)午前9時～午後1時を除く)
☎ファンクションルーム

動画配信

障がいのある方もない方も楽しめる動画を公開しています。今回取材した選手も動画に出演しています。

福祉の店

障がい者施設で制作された自主生産品を紹介しています。購入方法や購入ページの案内もしています。この機会に、ぜひ購入してみてください。



市内障がい者・障がい児施設マップ

市内の障がい者・障がい児施設をマップで紹介しています。